

## マグマの上に築かれた城下町での生活

萩地域には、多様な地質・地理的特徴があり、それらによって特定の事業や産業が発達した。江戸時代の町並みが見事に保存されています。萩周辺で見られる火山性粘土の特異な性質が、萩焼と呼ばれる独特の陶磁器の生産を可能にした。沖合の岩盤が肥沃な湾を支えている。城下町は、その地質学的な歴史の恩恵を受けて、何世紀にもわたって繁栄してきた。江戸時代（1603～1867）の萩の町並みは、今もよく保存されており、地元住民が地質学的遺産と共存してきたこと、そして彼らがそれらを頼りにしてきたことを物語っている。

左から右へ、上から下へ、図のテキスト：

旧城下町  
萩地域

鳥居の上の図のテキスト  
明治維新（1868）から150年

武家屋敷  
お寺と神社  
酒蔵  
石屋石工のエリア  
萩焼のオリジナルの窯元

左から右へ、上から下へ、6列のテキスト  
村の生活

阿武海岸エリア  
奥阿武エリア  
たたら製鉄

奥萩・長門峡エリア  
林業集落

萩往還エリア  
宿場町

見島エリア  
萩エリア  
須佐・江崎湾エリア  
阿武海岸エリア  
農村

見島エリア  
萩エリア  
須佐・江崎湾エリア  
阿武海岸エリア  
漁村

タイトル：  
産業分野  
気候・生態系  
地質学・地形学

赤い吹き出し：  
萩焼の土は元々マグマだった

農地に適している

ゴツゴツした改訂が魚を引き寄せる

列から二番目：  
大陸マグマの形成  
1 億年前～3000 万年前

日本海マグマの形成  
2000 万年前～1200 万年前

島弧マグマの形成  
200 万～8800 年前

最下段

プレートテクトニクス